

山形保険医新聞

Yamagata medical practitioners newspaper

発行
山形県保険医協会
〒990-0043 山形市本町二丁目1の2フコク生命ビル
電話 023 (642) 2838
FAX 023 (642) 2839
購読料 千共1ヵ月 500円
印刷 コロニー印刷
第534号

5月号 TOPICS

春のPR号

今月号はまだ会員になられていない先生にもお送りしています

協会ホームページで公開中 ぜひご覧ください(会員限定)



2024年6月 診療報酬改定

▼動画の視聴はこちらをクリックしてください▼

医科「新点数・介護報酬Q&A」
NEW 第2次新点数検討会
(主催:全国保険医団体連合会)

歯科「2024年改定の要点と解説」
NEW 解説動画
(講師:佐藤誠先生)

医科「点数表改定のポイント」
第1次新点数検討会
(主催:全国保険医団体連合会)

歯科「2024年改定の要点と解説」
歯科新点数検討会
(主催:全国保険医団体連合会)



歯科改定について解説する佐藤誠先生

診療報酬改定 医科・歯科解説動画

4月下旬から追加配信

協会では、6月に行われる診療報酬改定を説明した動画をWebで配信している。動画は協会ホームページからアクセス可能で、会員医療機関のみが視聴できる。動画は3月末に保団連が開催した「新点数検討会」を収録し、テキスト「点数表改定のポイント」(医科)、「2024年改定の要点と解説」(歯科)の内容を説明している。

さらに、会員医療機関からの要望に応え、医科・歯科とも新たな動画を追加で配信。4月下旬からは、当会理事で保団連の歯科社保ワードの案内を同封し会員医療機関に既に送付している。動画を視聴し、診療報酬改定対策に役立てていただきたい。会員でない医療機関でも、入会後視聴できるので、入会のご検討をお願いしたい。

テキストはID・パスワードの案内を同封し会員医療機関に既に送付している。動画を視聴し、診療報酬改定対策に役立てていただきたい。会員でない医療機関でも、入会後視聴できるので、入会のご検討をお願いしたい。

春のPR号

1面 協会の活動紹介
2面 会員のメリット 共済申し込みまもなく締め切り
●ぜひこの機会にご入会ください●

山形県保険医協会へ ご入会を おすすめします

入会方法

入会申込書に必要事項を記入いただき、協会へ送付ください
(FAX可、ホームページからWeb申込可)

【会費】入会金はありません。会費には定期刊行物の料金も含まれています。

〈定期刊行物〉山形保険医新聞(月1回)、全国保険医新聞(月3回)、月刊保団連(月1回)

開業医会員 月額 5,500円

※開業医会員は入会後1年間のみ3,500円

勤務医会員 月額 3,500円



●ご入会のお申込み、解説動画ID・パスワード、テキスト注文など、電話またはホームページからお問合わせください。

医科・歯科診療所、病院向けスタッフセミナー Web 配信のご案内

あなたの電話対応で医院のイメージが決まる

～安心と信頼の電話対応を目指す～

講師／電話対応技能検定指導員

遠藤ひさよ氏

- 第1部 基本を知る／電話を受ける・言葉を声に表わす
- 第2部 振り返る／普段の対応を見直す
- 第3部 気づく／事例で考える



講演時間 3部合計 約30分

視聴期間 2024年5月15日(水)～6月21日(金)

対象 会員医療機関の医師・歯科医師、看護師、歯科衛生士、看護助手、歯科助手、受付事務ほか、全ての医療機関職員

視聴方法 YouTubeによるWeb配信方式

インターネットによる視聴環境をご準備ください

視聴無料

事前申込が必要です

お問い合わせ先:山形県保険医協会 TEL 023(642)2838

〒990-0043 山形市本町2-1-2 フコク生命ビル2F <https://www.hokeni-yamagata.jp/>

つばさ
今年の診療改定率(歯科)は0.57%だが、そこには賃上げ対応分も含まれており、物価上昇率等を考慮すると実態は前回の0.29%を下回るのではないかと囁かれています。医院の経営も危機的な様相を呈してきた。国は患者にかかりつけ医・かかりつけ歯科医を持たせることが医療費抑制につながると考え、かかりつけを推進するための点数設定を行うが、それにより保険診療には多くの制約がつき、同じ診療行為でも条件のあるなしで点数が変わる一物二価につながっている。加えて、今回は従業員の給与アップの財源を患者に押し付ける「ベースアップ評価料」なる点数が設けられた。賃上げの実施の有無で基本診療料が変わるといのはなんと奇妙だ。マイナ保険証の推進にも加算が設けられ、純粋な技術料への配分は多くは見込めない。経営の安定になげようと煩雑な施設基準や研修要件を見て、対応しようかしまいか悩み、ふと我に返ると嫌気がさしてくる。私達の仕事は、患者さんと向き合い、疾病と戦うことのはずだが…。私達医師・歯科医師としての喜びとは何か、どのように働き貢献するのか、毎日の診療の中で見失わないようにしたい。改定のことを考えると同時に思うのである。(H)